

政策番号 政策名

211 美しいまちをつくる

政策の方向

京都が魅力あふれる美しいまちであり続けるため、規制の強化のみによるのではなく、住民みずからが取り組む活動に対する支援を行うなど、まちの美化を進めるとともに、地域の個性や自然・歴史的な条件を十分に考慮して、景観や緑地の保全と向上に努める。

このようにして、自然・歴史的な風土と調和したまちを保全・再生するとともに、京都の華やぎを後世に伝える新しい景観を創造するための取組を進める。

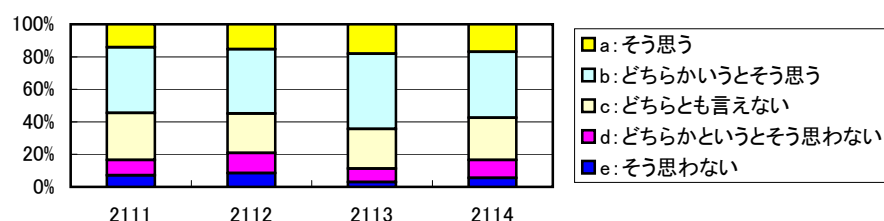
政策の評価

1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

施策番号	客観指標名	19		20		21	
		数値	評価	数値	評価	数値	評価
2111	放置自転車の台数（台）	7282	b	7896	d	7896	d
2111	まちの美化推進住民協定の締結数（件）	321	a	324	c	336	c
2112	電柱をなくし管路を道路に埋設した延長(km)	1.75	e	2.18	d	2.3	d
2113	河川整備（％）	53.6	b	54.4	b	54.8	b
2113	公園箇所数（箇所）	814	a	839	a	861	b
2114	杣人工房の利用者数（人）	5915	b	6783	d	7881	e
2114	戸建住宅の着工件数に占める木造住宅の割合（％）	89.7	d	90.6	b	91.1	b
客観指標総合評価			b		c		c

2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価

施策番号	設問	評 価		
		19	20	21
2111	まちに散乱ごみが少なくなってきた。	c	b	b
2112	京都の個性的なまちなみ景観が守られている。	c	c	b
2113	京都は水と緑をうまく生かしたまちである。	b	b	b
2114	まちなかには文化を感じさせる木造建築がきちんと残っている。	c	b	b
市民生活実感総合評価		c	b	b



3 総合評価（市民生活実感総合評価＋客観指標総合評価）

B	客観指標については、全7項目のうち2項目で評価が下がったものの、全体としては昨年度に引き続きどちらとも言えない状況である。 市民生活実感については、4項目全てがb評価となり、昨年度に引き続きよい状況である。 こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。	19年度	B
		20年度	B

4 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

19年度		20年度		21年度	
順位	%	順位	%	順位	%
11	17.1%	13	13.8%	13	14.9%

5 原因分析・今後の方向性

・総合評価は、昨年度に引き続きB評価となった。

・客観指標では、公園箇所数や杣人工房の利用者数は伸び悩んでおり、他の指標も昨年度と大きな変化は見られなかった。市民生活実感では、景観が守られていると感じる市民が増加するなど、美しいまちづくりについての市民の実感が高まってきており、新景観政策の取組が着実に浸透しつつあるものと考えられる。

・今後も、「世界一美しいまち・京都」の実現を目指し、市民や事業者とともに、まちの美化や京都の景観の保全・再生・創造に取り組んでいく必要がある。また、景観重要建造物の修理・修景への助成や電線類地中化事業について、国の助成を要望していくことが必要である。

（参考）この政策を実現するための施策とその総合評価

施策番号	施策名		評価結果		
	施策概要		19	20	21
2111	市民，事業者と一体となったまちの美化の推進		B	C	B
	一人一人がごみを捨てない，また，捨てさせないという市民意識を醸成し，監視・指導の強化や公園・河川等の美化活動を促進するなどにより，まちの美化の推進に取り組み「世界一美しいまち・京都」を実現する。				
2112	個性的で美しい景観の形成		C	C	C
	自然・歴史的な景観の保全，市街地のきめ細かな景観づくりを推進し，個性的で美しい景観を形成する。				
2113	水と緑を生かしたまちづくり		B	B	B
	自然や歴史環境を生かした公園や水辺環境の整備などを推進し，水と緑を生かしたまちづくりを進める。				
2114	木の文化が息づくまちづくり		C	B	C
	町家や社寺などの伝統的な木造建築物や，漆器や木工品などの木の文化を守り育てるため，木造建築物の建設の誘導，技能の継承支援などを進める。				